

新たな「大阪市環境基本計画 - SDGs 達成に貢献する環境先進都市 -」素案の概要

新たな環境基本計画

- ▶ 背景
 - 世界 人口の増加と経済の拡大、温暖化や海洋汚染、野生生物種の減少など地球環境の悪化
 - 日本 少子高齢化・人口減少社会の到来
 - 地域コミュニティの弱体化や高齢単独世帯の増加など、さまざまな影響が懸念
- 「持続可能な開発目標（SDGs）」、「パリ協定」の採択など持続可能な社会をめざす動き
- 持続可能な社会の実現に向けてパラダイムシフト（考え方の大きな転換）が必要

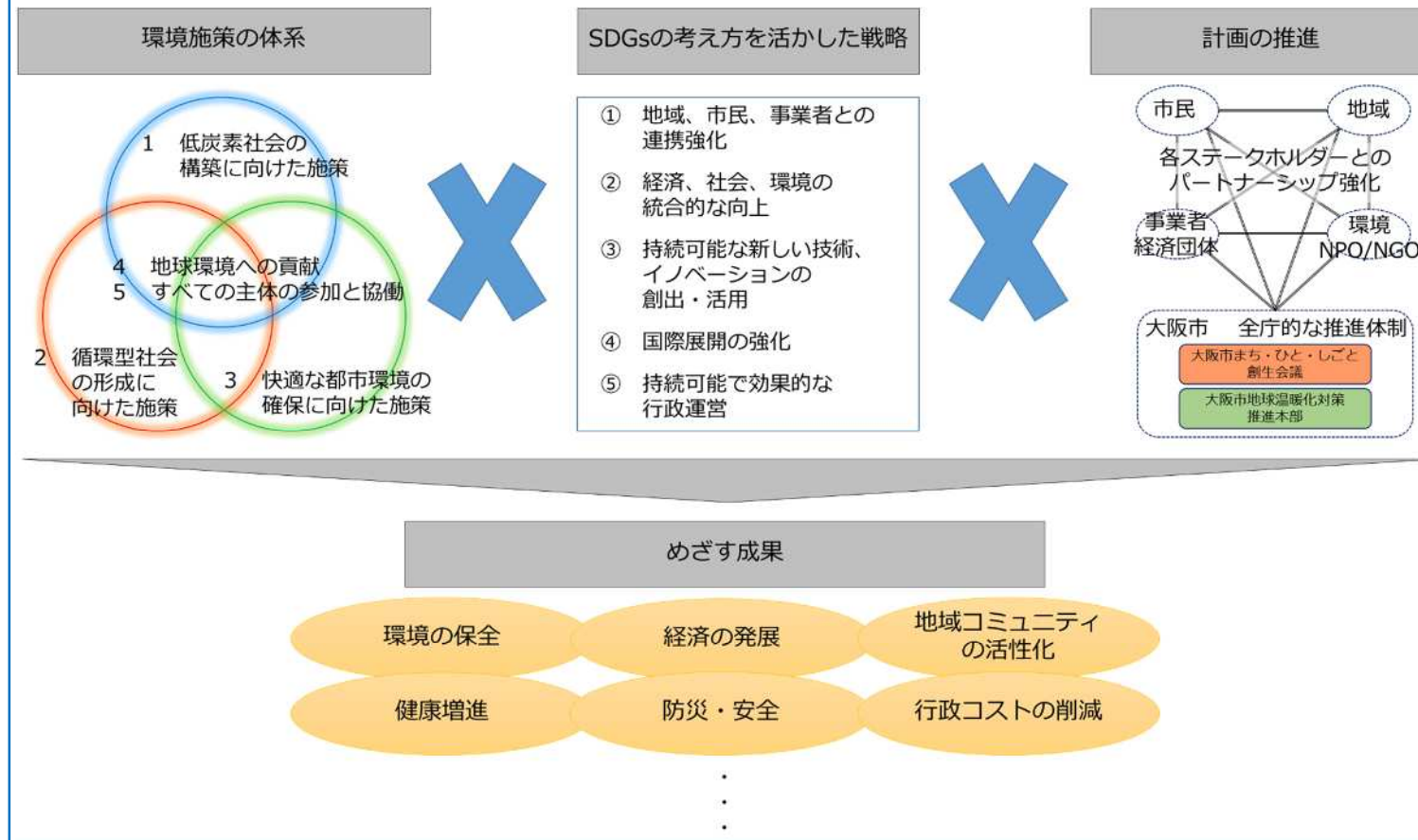
計画の位置づけ



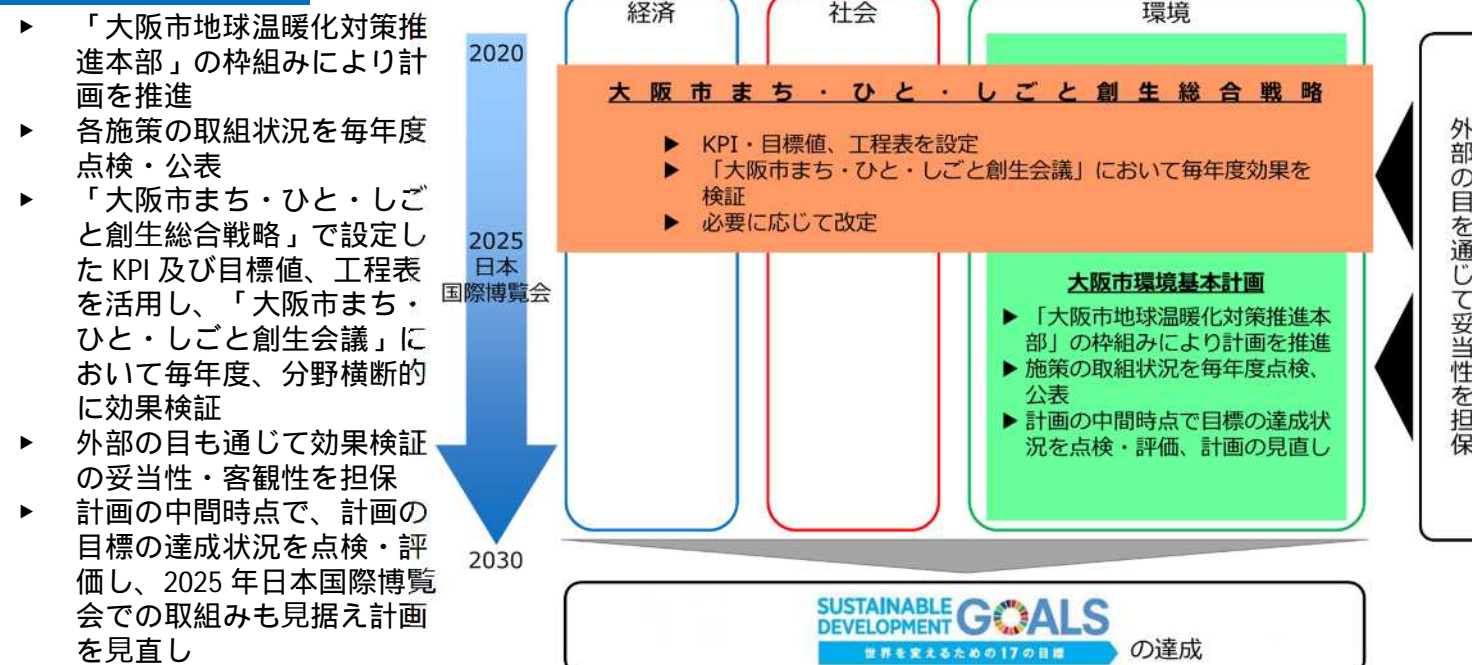
- ▶ 計画期間 2030年度まで（＝SDGsのゴール）
- ▶ 基本的な視点
 - 持続可能な開発目標（SDGs）実現の視点
 - 経済・社会・環境の統合的向上の視点
 - 一人ひとりの人間を大切にする視点
 - 循環・共生の視点
 - 持続可能なイノベーションの視点
- ▶ 計画のビジョン SDGs達成に貢献する環境先進都市
安心快適な環境、経済・社会・環境の好循環、地球環境に貢献

新たな環境基本計画のコンセプト

- ▶ 「経済・社会・環境の課題を同時解決」「すべてのステークホルダーの参画・連携」「誰一人取り残さない」というSDGsの考え方を積極的に活用、SDGsの実現に貢献
- 幅広い市民生活の領域全般にわたる確に対応するという基礎的自治体としての使命、国際的な大都市として求められる役割・責任が、SDGsの理念と一致



推進体制と効果検証



- ▶ 「大阪地球温暖化対策推進本部」の枠組みにより計画を推進
- ▶ 各施策の取組状況を毎年度点検・公表
- ▶ 「大阪まち・ひと・しごと創生総合戦略」で設定したKPI及び目標値、工程表を活用し、「大阪まち・ひと・しごと創生会議」において毎年度、分野横断的に効果検証
- ▶ 外部の目も通じて効果検証の妥当性・客観性を担保
- ▶ 計画の中間時点で、計画の目標の達成状況を点検・評価し、2025年日本国際博覧会での取組みも見据え計画を見直し

戦略 ① 具体の取組み例
ごみ削減の取組み

ねらい

- 市民・事業者の協力のもと、ごみの分別、資源の回収・循環を拡大し、ごみを削減。深刻化する海洋汚染の改善にも貢献



さらに

- 戦略 ②** コミュニティ回収の収益を地域に還元し、地域コミュニティを活性化
- 戦略 ④** 本市の廃棄物処理の技術・ノウハウを海外展開
- 戦略 ⑤** ごみ収集・処理コストを削減

SDGs のゴールとして



の達成に寄与

1 地域、市民、事業者との連携強化

公害や廃棄物問題を市民や事業者と共に克服してきた歴史や地域コミュニティ、優れた環境技術を有する企業の集積などの強みを活かし、市民に最も身近な総合的な行政主体として施策を展開

2 経済、社会、環境の統合的な向上

環境の課題と人口減少・高齢化等の社会的課題や経済的課題は相互に関連し、複雑化
環境面から対策を講じることにより、経済・社会の課題解決にも貢献すること、経済面・社会面から対策を講じることにより、環境の課題解決にも貢献することを追求

3 持続可能な新しい技術、イノベーションの創出・活用

新しい技術やイノベーションは、環境問題の克服やコストの削減、経済発展を牽引する原動力
持続可能な新しい技術やイノベーションの実用化フィールドとなって開発や普及を促進

5 持続可能で効果的な行政運営

市民生活と直結する基礎的自治体として市民ニーズに的確に対応し、行政サービスの充実と、効率的・効果的な行政運営に努める

4 国際展開の強化 (グローバルパートナーシップ)

パリ協定や SDGs の採択を受けて、企業では、サプライチェーン全体で環境負荷を低減していく動きが加速
優れた環境技術の需要の拡大、環境ビジネスのグローバル展開が期待される
大阪が蓄積してきた技術、ノウハウ、ネットワークを活かし、「オール大阪」で国際的な環境協力、環境ビジネスを展開

戦略 ⑤ 具体の取組み例

家庭系ごみ収集輸送事業改革プラン

ねらい

- ごみ収集輸送事業において、ICT の活用と体制の効率化によりコストを削減

家庭系ごみ収集輸送事業改革プラン【H29～H31年度】

「2つの柱」	
経費の削減	市民サービスの向上
平成28年度比で、 約10% (150名) の削減	<ul style="list-style-type: none"> 交通事故発生件数の削減 平成26～28年度から3割減、45件以内 災害時の対応 環境事業センターが発災後の迅速・適切なごみ収集のコントロールタワーとして機能
▲6.2億円/年	

さらに

- 戦略 ②** 地域を熟知する環境事業センターが災害時のコントロールタワー、地域の見守り拠点としても機能
- 戦略 ①** 市民、地域の協力のもと、分別・資源循環を拡大

SDGs のゴールとして



の達成に寄与

戦略 ② 具体の取組み例
エコカーの普及促進

ねらい

- CO2 排出量削減による地球温暖化防止、排ガスの減少による大気環境改善・市民の健康増進、経済成長・雇用創出等を同時に追求



- 戦略 ①** 市民や事業者によるエコカーの導入を促進
- 戦略 ③** FCV の普及拡大により水素社会の実現を可能とする持続可能な新技術の開発・普及を促進

SDGs のゴールとして

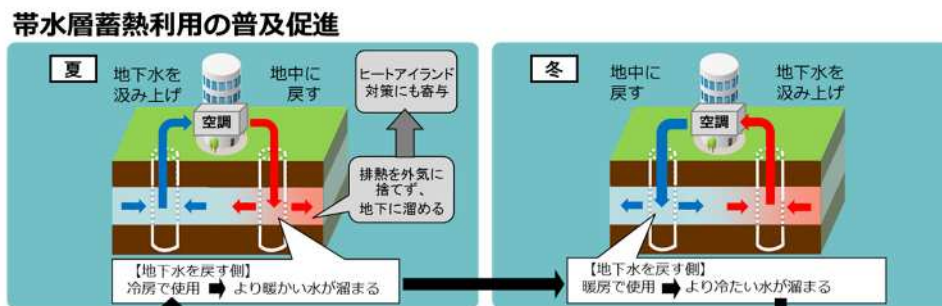


の達成に寄与

戦略 ③ 具体の取組み例
地中熱の導入促進

ねらい

- 大阪地域における地盤環境を活かした高セキュリティ、低コストの新たなエネルギーシステムを構築



- さらに**
 - 戦略 ②** CO2 の削減、ヒートアイランド現象の緩和、エネルギー分野の産業振興を同時に追求
 - 戦略 ①** 優れた技術をもつ事業者との連携によりイノベーションを創出

SDGs のゴールとして



の達成に寄与

戦略 ④ 具体の取組み例
Team OSAKA ネットワーク

ねらい

- オール大阪で、環境技術・環境ビジネスを国際展開し、途上国の環境課題解決と大阪・関西経済の活性化を図る

さらに

- 戦略 ①** 産官学の連携による国際展開
- 戦略 ②** 世界・途上国の環境課題解決と大阪・関西経済の活性化を同時に追求
- 戦略 ③** 大阪が蓄積してきた技術・ノウハウを活用・普及

SDGs のゴールとして



の達成に寄与

二国間クレジット制度 (JCM) プロジェクトの実現例

